

中国におけるジャガイモ・サツマイモ・焼きいもの コストパフォーマンス

日農化学工業(株) 常務取締役

椎名隆次郎

2015年2月北京に出張した際、孫文の夫人であった宋慶齡が暮らしていたとされる家の前で、商いをする焼きいも屋さんが目に止まった。興味本位に値段を聞くと“1kg10元（約200円、1元＝20円換算）だよ。”と明るい返事が帰ってきた。この価格は大卒の初任給が2000～3000元／月（4～6万円）と聞いていたので、そこそこ高いような気もしたが、数分の間に親子連れやご夫

婦がじっくり選んだ後、使い古された棒ハカリで計量され300～400gくらいありそうな大きな焼きいもを満足げに購入していった。北京の人達は裕福なのか、いずれも値段交渉せず購入していたので少し驚いたが、それにしても上々の売れ行きである。

残念ながらその場で焼きいもを食べることは出来なかったが、後日食べた感想を述べると、黄色で粘質タイプの焼きいもは、



昔中国で食べた焼きいもよりも数段甘く美味しいものであった。ホテルでも蒸かしたサツマイモを食べたが、十分な甘味があり、最新の日本の品種に及ばないものの、掘たての「高系14号」よりは食味が良かった。

その後、北京中心から少し離れたカルフルで青果用のジャガイモおよびサツマイモの価格を調査したところ、濃い赤皮のサツマイモが4.58元/500g（約183円/1kg）オレンジ皮の焼きいもと同系統と思われるサツマイモが2.48元/500g（約99円/1kg）、赤皮のサツマイモが2.59元/500g（約104円/1kg）、「男爵薯」のようなジャガイモが0.98元/500g（約39円/1kg）という価格設定であった。焼きいも屋さんの原料いもの仕入ルートは不明

だが、10元/1kgの価格設定は妥当な価格であり、それは値段交渉をしないところからも窺い知ることができる。なお、物価の物差しとして、カルビーのかっぱえびせんが3.8元（76円/1袋）で売られていたことを紹介しておく。

2015年8月にも中国山東省を訪れる機会があり、価格調査を行ったところ土豆（ジャガイモ）が1.39元/500g（約56円/1kg）、新土豆（新ジャガイモ）が1.98元/500g（約79円/1kg）、地瓜（サツマイモ）が2.99元/500g（約120円/1kg）であった。北京のカルフルより若干価格設定は高いものの、それでも日本に比べかなり安いことがわかる。ちなみに標準的なカップ麺が4元（約80円/個）程度で売られてい



ることを考えると、物価的には日本の2～3割安の中、ジャガイモ、サツマイモの価格はかなり低く抑えられている。



最後に山東省の洋食レストランで懇親会を開いていた時、食後に蒸かしたジャガイモが出てきた。品種的には「メイクイン」を大きくしたような系統で、食味も「メイクイン」に近いものであった。ホテルやスーパーでもこの系統しか見かけなかった。また余談であるが、まったく味付けしていない蒸かしたジャガイモの食べ方について地元の方とも談議になったのだが、日本では塩やバターを付けて食べると説明したところ驚かれ、“ここではこれを付けて食べ



るのが一般的”と出てきた調味料が砂糖であったのには驚いた。郷に従え的に砂糖を付けて食べてみると、食後のデザートと考えればなかなか美味しいものであった。

これからも中国出張の際は、できるだけ現地スーパーに立ち寄り、農産物を含む食品の価格調査を行い情報をお届けしていきたい。

備考：山東省では、有色サツマイモの花が咲いていた。平年、花はあまり咲かないとのことなので、2015年の天候はあまり良くなかったことを示唆しているようだ。

